

内閣府より2024年SDGs未来都市に選定されました

内閣府では2018年（平成30年）度から、地方創生に向け優れたSDGsの取組を提案する地方自治体を「SDGs未来都市」として選定し、その提案の中で特に優れた先導的な取組を「自治体SDGsモデル事業」として選定して支援し、成功事例の普及を促進しています。

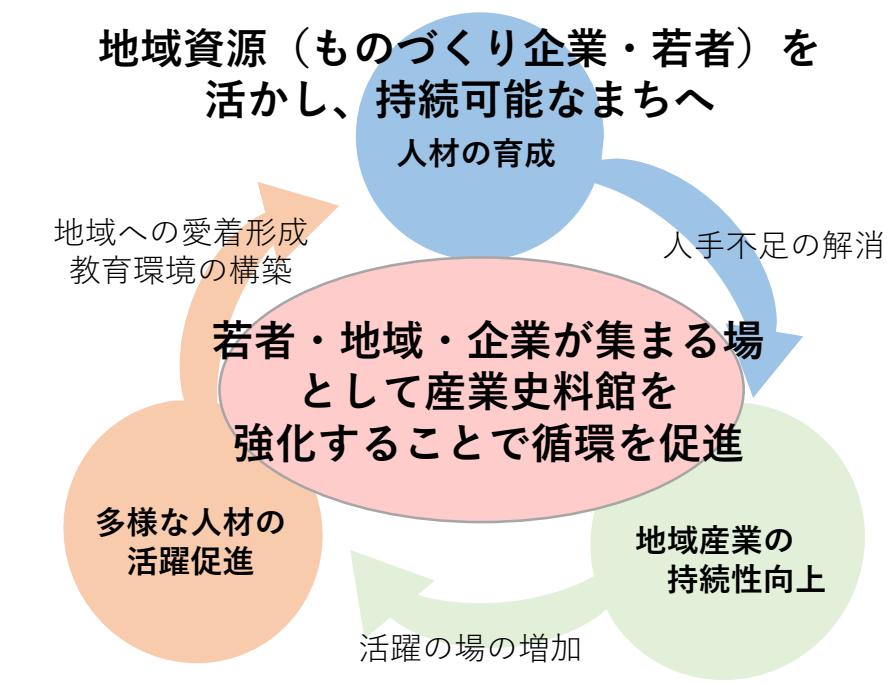
この度、燕市の「ものづくりのまち」という地域資源を活かした提案が「SDGs未来都市」（全国で24都市）および「自治体SDGsモデル事業」（全国で10都市）として選定されましたので、ご報告いたします。

提案した計画では、第3次燕市総合計画を推進していくことで、SDGsの達成を目指していくこととしており、2025(令和7)年度以降、当審議会の中でSDGs未来都市計画の進捗も併せて管理していきたいと考えております。

SDGs未来都市計画の概要

計画名：ものづくりのまち・燕ならではの「シンカ」プロジェクト

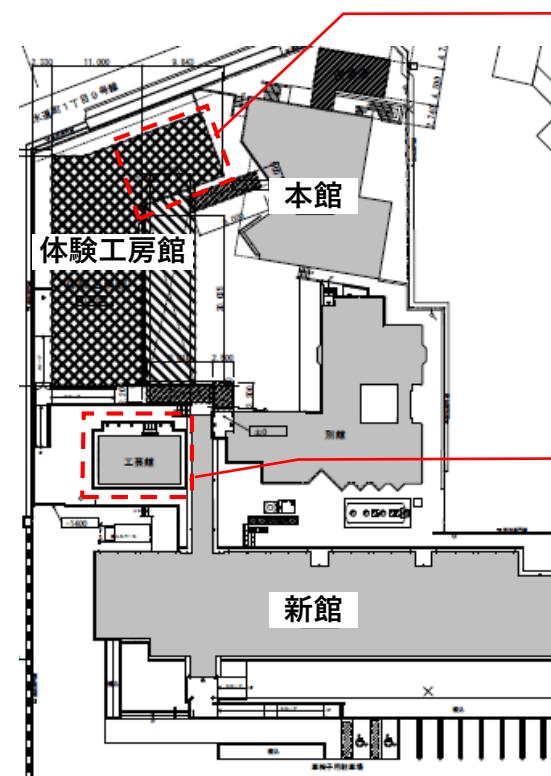
ものづくりを核とし、若者・地域・企業が互いに集い、繋がるための場の構築に向け、産業史料館の機能を強化します。市内企業との連携のもと、従来のものづくり体験に加え、3Dプリンターなど最先端機器等を活用したモデリング体験や様々な形式のワークショップ等を通じた新たな学びの機会をつくることで、若者から本市の基幹産業であるものづくり産業をより身近に感じてもらい、将来の地域社会を担う人材を育成するとともに、地域全体のさらなる活性化を図ります。



4 質の高い教育をみんなに 	8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	11 住み続けられるまちづくりを

SDGsモデル事業としての新たな取組

○産業史料館の機能強化



体験工房館にデジタル機材の導入



小中学生をはじめとした子どもたちが新たなものづくり手法に触れる機会を創るため、3Dプリンターなどの機材を導入します。

土蔵（旧工匠館）を再生



※完成イメージ

古民家を活用した地域再生の実績がある建築士カールベクス氏との協働により、より多くの若者・地域・企業が集う場所やショップとしての機能を付加して改修します。

○企業と連携したワークショップ

企業と連携し、「ものづくり」をテーマに子どもや若者が地域や企業と繋がるワークショップを複数回開催します。また施設や地域への愛着を造成することを目的に、改修の際に土蔵再生に関わるイベント等を開催します。



○周知啓発

SDGsの考えに基づき、持続可能なまちづくりに関する周知啓発を図るため、ホームページを改修するとともに、動画などのコンテンツを作成します。



【QRコード】
詳細については
市ホームページにて順次公開していきます▶

